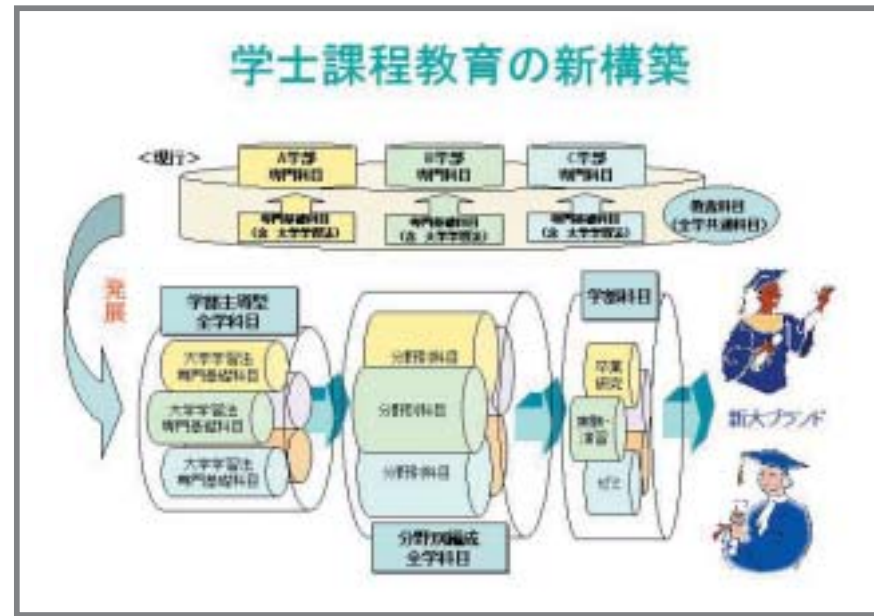


特色ある学士課程教育

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは自分の将来を見据え、その将来計画を現実のものとするため、大学への進学を決め、そして新潟大学に入学されたことと思います。

大学での学習は、高校までに身につけた教育成果を基礎とし、更なる知的探求心のもとに取り組むことになります。人文社会、教育、自然及び医歯学系の学部を有する新潟大学では、その利を生かし、次に説明する「ベンチマークプログラム」及び「オナーズプログラム」を核とした新しい学士課程教育（学部教育）制度を導入しました。

本学の制度を活用し、自ら意欲を持って勉学を深めることによって大学院進学を含め、将来の選択肢が広がることを期待します。

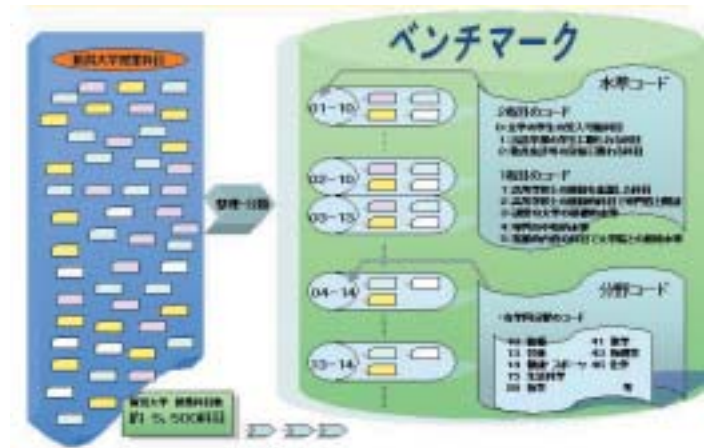


ベンチマークプログラム（分野・水準表示法）

新潟大学五十嵐キャンパスの7学部（医・歯学部を除く）で開講されている全ての科目に、分野と水準を示すコードを統一的に付けるものです。これにより、新潟大学で開設する全ての授業科目を分野別一覧表の形で見る事ができます。科目には水準を示すコード（注1）が付いていますので、各科目の難易度を明確に把握し、科目の相互関係や体系的性を理解することができます。

例えば、生物学分野の科目は、理学部はもちろん、教育人間科学部、農学部、工学部のカリキュラムに含まれていますが、学部によって科目名が異なるため、水準が同じでも所属する学部の科目名でなければ卒業要件単位として認定されませんでした。しかし、ベンチマークを付すことによって各学部のカリキュラムに含めることができるようになります。生物学とは関連が薄い学科の学生で、教養教育に関する科目の中で生物学を履修し、もう少し深く生物学を学んでみようと思った時、ベンチマークプログラムの科目表を見て、より専門的な科目の履修に挑戦する可能性が開かれます。

ベンチマークプログラムを使うことで、所属学部にとらわれず、新潟大学の全教員を自らの勉学に活用することが可能です。また、自立的な学習計画が立てられれば、総合大学である新潟大学に入学した利点を十二分に生かして、幅広い勉学も、深い勉学も可能となります。



(注1)

水準コード	0番台科目（原則として全学の学生の聴講を認める）
	01 高校との接続的科目 02 専門性に関連した高校との接続的科目
	03 基礎的水準の科目 04 専門の中核的水準の科目
	05 大学院との接続水準の科目
	10番台（原則として他学部学生の聴講を認めない）
	20番台（教職科目等）
分野コード	学問分野ごとにコード番号を割り当てたもの
	(例) 10情報 13芸術 14健康・スポーツ 43物理学 46化学

オナーズプログラム（副専攻制度）

所属学部学科の学位とは別に、特定分野の学習成果を認証する制度です。専門分野の勉学の成果は、卒業時に「学士」という称号を得ることで、社会的に認知されます。しかし、従来、専門分野以外の分野について、学習成果を認証する制度はありませんでした。

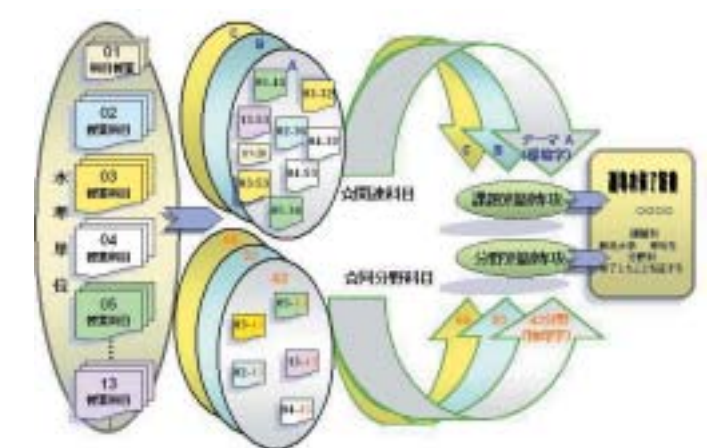
副専攻制度では、当該専門分野以外の特定分野科目を一定単位数以上取得した学生にその勉学の認証を付与する制度です。学生は卒業にあたって副専攻認定の申請を行います。一定の基準（注2）を満たしていることが確認されれば、専門分野に関わる「学士」の卒業証書に加え、課題・分野のテーマを明記した「副専攻」を認定する証書を授与します。

「課題別副専攻」

学内で開設されている授業科目を分野横断的に統合したプログラムを作り、学生に「テーマカリキュラム」として提示します。提示されている科目から一定の要件を満たすように選択履修して、一定レベル以上の成績で単位を取得した時、課題別副専攻履修者としての認定を得ることができます。

「分野別副専攻」

ベンチマークプログラムにおける特定分野の授業科目で構成するプログラムを作り、そのプログラムの中から、一定数以上の単位を取得した場合に副専攻の認定を受ける制度です。



(注2)

認定要件	副専攻プログラムの認定の対象となる資格を有し、かつ所定の授業科目について24単位以上を修得していること。
	卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に12単位以上を加えたものであること。
	卒業時まで履修したすべての授業科目について、1単位当たりの成績の平均値（GPA）が2.5以上であること。

聴講体験談

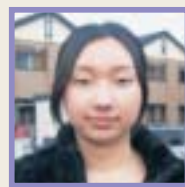


ご入学おめでとうございます。楽しい大学生活を送るために履修のアドバイスをしたいと思います。

1年生は教養教育を中心に学ぶこととなります。自分でシラバスを読んで、興味のある授業を探したり、先輩が面白いと言っていた授業をとってみるのもおすすめです。また、その際いろいろ人と出会うチャンスです。授業をきっかけに友達の輪を広げてみてはいかがでしょうか!?

1年のうちに教養教育をすべて取ってしまうと、2年次以降とても楽になります。計画的に時間割をたてましょう。大学生活はとても楽しいです。勉強と遊びを両立してすてきなキャンパスライフを送って下さい。

（長嶋真由さん / 教育人間科学部生活環境科学課程4年）



初めて聴講取りをする際は勝手が分からず戸惑うこともあるかと思います。一般的にはシラバスを読み、先輩の意見などを参考にしつつ、自分の興味がある講義を取ることになると思います。シラバスだけでは分からない部分もあると思いますが、そんなときは講義の担当教授に直接聞きに行ってみてはいかがでしょうか。どのような先生が講義してくれるのか知ること意外に重要な事だと思いますし、もしかしたら先生から何か興味深い話が聞けるかもしれませんよ。

また、自分が興味を持っていることは、図書館や学部の資料室などで情報を収集したり、専門の教授に直接教えを乞いにいくなどして自主的に学んでいけば良いと思います。

（高橋奈央さん / 法学部法政コミュニケーション学科3年）